京城新報

●新聞代　一部二錢　一ヶ月前金五十錢　三ヶ月前金　六ヶ月前金　郵税一ヶ月金拾錢
●廣告料　五號活字十九字詰一行一回金三十錢　四號活字十四字詰一行金四十五錢
●陰曆　十一月四日
發行編輯人　山下英[illegible]
印刷人
京城西署西小門通
發行所　京城新報社
電話六六三

論說

眞面目なれ

天嘯生

●花月の紳士日本人俱樂部の政治家今少しく眞面目なれ世には國家の天職を民族品性の上に認め一身の熱血を灑て人道の祭壇に趨向するクロンウエルの如きエパミノンダスの如きもあるなり英皇即位禮の當日トランスバールの虐殺と印度飢饉の慘狀とに痛心して大禮を呪詛するを忌まざりけるこそ其人の尙ほ大國民たる證左ならずや

●日本人にして統監府韓人にして一進會に緣故なくば人に非らざるが如く念ふ者は是れ國民を侮辱する者たり統監府と一進會の施設を曲直共に謳歌するのみを以て忠義なるが如く誤解する者あらば是れ武士道的祖先の後裔に非らざるなり韓國人民は皆一進會員に非らず日本國民は皆統監府員に非らざるものを

●敵の爲めに恥を掩ひ敗者の爲に鬪を頒つ武士道的精神此地に於ても亦發揮されざる可からず縱し第三國が韓國處分を吾自由に委したればとて得々として弱いものイヂメの場に上ぼり人心日に睽離し經營日に逆戾し亂得たる者は唯官制改革のみとせば天下誰れか日本の統治手腕を承知する者ぞ

●新聞記者筆を揃て諫爭する此時に在り民間有志口角泡を飛ばして辨難する此時に在り斯くして眠れる當局者を覺醒せしめよ忠義とは此れの謂なるべし

●今や統監東上の途にあり老來身を挺して南船北馬寧處に遑なし其勞多謝に耐へず昔し毛利元就中國平定の日諸將を集て訓示して曰く此度追々服從する國に仕置するに就て申すなり侮其民者不君其土と云ふ語を忘れざる樣に能く心得よと後年眞田幸村之れを聽て深く讃嘆せりと云ふ元龜天正の一武夫尙ほ此深沈偉大の識見を藏す統監の明豈に知らざらんや但し吾人在留官民をして此大政策を實行せしむべく慫慂せよ韓民の反[illegible]之れが統治の責任に立つ吾人官民の心術と行爲とに誤りなくば韓治の[illegible]を竢て待つ可しとす問題は只是れの一言を呈す

紐育恐慌の由來（上）

大體の觀察

現下に於ける經濟界の非常なる恐慌を來せる原因に就て極く大體に就いて云ふ時は、此數年間世間一般殊に米國の商工業が盛んで萬事異常の盛況を呈して進んで來た其反動に過ぎぬと言ふべきであらう。商工業が非常に激進し來つた結果資金の缺乏を來しつゝあつたが殊に昨年あたりより一層此弊が高くなつて仕事の方が多くて金が足らないと云ふ狀況にも見ゐたのである、又或人の說には去年あたりより大分歐羅巴から種々なる形を以て金を借り入れたので其等の反動は何れ一度は來るであらうと觀察しつゝあつたが格別の破綻なしで無事平穩に過ぎした、所が矢張之を過ですに就ては主として歐羅巴より短期手形を出して金を借り漸く通過し來つたのであるから早晩此の大景氣大繁昌的の時期が一轉して、其反動を生ずるに到るであらうとは少しく先見ある人士の之を口にする處であつた、果せるかな此の反響は種々の方面に現れて有價證券は下落する實際的商工業に資金を投じて事業を經營せし他利殖のある公債を買ひ入れるとか社債に應ずるとかは各人の間に於て自然之を爲さぬ有樣となつた爲め隨つて有價證券は下落し金利は昂騰するの狀況に陷つたのである、元來亞米利加に於て大仕事を爲す所の仕振り及目的と云ふ者は種々あらうが先づ其の主としての行り口は自己の資本と信用とに依つて事業を創設するとして單に事業を起すなり擴張するならば宜いが若し其事業にして稍々成立しかけて世人の信用するに足ると思ふの時期に達すれば最早得たりと爲して之を公衆に賣却する卽ち株を賣るなり公債を賣るなりして利收を獲取するのである、如斯順序になり來りし處昨年頃より公衆が右等の種類に餘り投資せなくなつたので巴理邊で社債を募るとか種々の手段を以て外國より資金を輸入するに力めて過ごし來つた、右の如く事業の擴張を過度にせし結果結局一頓挫を來すは免れ難き數である、

銅の下落せし原因と銀行の破綻

世間の事業が非常に膨脹して其一頓挫を來すの場合には如何なる方面に最も早く其反響を及ぼすやと云ふに第一に銅或は鐵等の鑛材に來るのである、其原因は此等の鑛物は器機或は建設物の材料に供せらるゝものであつて世間の不景況を呈するの場合には此等建設の生產を控ゐざるを得ない譯の生產を控へる前に其生產を爲すの設備を控へると云ふ事になる、其れ丈けの生產あれば夫れ丈けの設備を要する順序である、所が世間の盛況が段々下火になつて其設備に償張を要すると云ふ事が控除されるので其影響は眞先に此に來るのである● 近來銅の下落は無論買占め等を爲したる者があつて異常の景況を爲したる其激しき反動にもよるが矢張大勢に於て既に前述の如く需要が減ずるの機運に向へるものあるが爲めだと思ふ、如斯銅の騰貴と相俟つて其の下落の反動が酷烈になつて來た爲め之に關係を有する者先づ破綻を生じ次いで其れに關係せる銀行が其渦中に墜落すると云ふ順序となる此等が此大恐慌を來す可き端緒とも主因ともなつたのである

總體よりしては

卽ち大勢上より觀察する時は數年來異數の大繁昌の反動又一面には前述の鑛材等の反況より生じたものと結論するのである、米大統領の富豪征伐と云ふ事を頻りに云ふ者もあるが勿論是れも其一原因には相違なからうが此れが爲め突然斯かる現象を呈せしめ得るものではない畢竟他に深き根底を有する原因の存するは疑ふ可らざる事である

北老爺嶺（嶺山脈）大森林及雪中縱斷記（四）

黑衣仙

此日は晝食迄に凡三里半、食後四里半ばかり都合八里の道を歩いた譯で、雪が五寸も積つてゐたので皆疲れて了つた、先づ何よりも腹を肥やすとが勘要ざ云ふから炊事に取掛らふさすると水がない、井戸は素より無し、溪流は氷に鎖されて酌めぬ、飲料水は皆雪を解かして用ゐると云ふ、籠に雪を詰めて來ては大鍋に入れて解かし、漸く水が出來たかと思ふと、今度は薪が爆る、木が楡や槲や樺で、いとゞ燃付き難い上に、雪で濕つてゐるから爆ると夥しい、夫も漸く松火を交へて火も出來飯と蘑菇（木茸）の汁に舌を打つ迄には、一時間半以上も掛つた、食事が濟むと炕牀の暖味でぐつすりと一寢入り、八時半頃から降り出した雪は眞綿を飛ばした如に降り頻つて明くる旦になつて目が覺めて見ると、積ると凡そ一尺二三寸。音もせず、靜に此夜は雪に明けた。

▲三分でも立つては居られぬ

十二月一日午前八時二十五分出發、雪は前夜から降り續いてゐる、脛を沒するほど積つてゐる森林中の山徑を踏分けてゆくのは却々困難である、けれど行着く處迄行かぬと途中に宿るべき人家がないから、些しも休ます晝食さへ歩きながら軍用ビスケットを嚙つてセッセと行く、自分等は防寒肩衣に厚い冬服を着た上に防寒外套を引掛け、頭を包被にて包み、手に防寒手袋を箝めて顏ばかり出して歩いてゐる、半道ばかり歩くと汗が出て來るので、先づ手袋を脫し、包被を取り、外套の釦を外してホンの肩に取掛けて步るく、熱いよりは少し寒い位が歩くのには好い、けれど鳥渡でも立止ると寒さが心に應ゐて來る、歩いてゐる中は靴下二枚で澤山であるが三分でも立つてゐると堪らない、直に凍痛にかゝる、晴天で風の有る日は靴が濡れぬ、が、降雪には足の暖味で雪が解けて靴がビショ〳〵になる、編上げが足に合ずて步き好いので皆之を穿いてゐるが、何麼な靴でも水は透す、森林中の雪は淡雪で殊に解け易い、丸で水溜を步いてゐる如で雪水が靴の內でビシャ〳〵してゐる、夫を炕牀の上で乾しては又翌日穿く二三丁も步くと又ビショ〳〵になる、之が歩いゐる中は何事もないが、立止ると凝つて足の先の明いてゐる靴の內に雪が出來る、氷が出來る、而して白く硬く凍傷になる、何うしても起きてから寐るまで稍々步き詰に歩いてゐない分には、全身が凍傷するから、馬が不便する間、荷を直す間を除けて、四十五分に一里の速度を以てセッセと歩く、歩きつゞけは歩いて、止つたところが陽岔という所で、沈家燒鍋（沈姓を名告る燒酎屋）は今宵の宿舍、午を下ると三時七分、着くが早いか直に火を燃して暖を取り、次は食事の用意、目が覺めると口も利かずにセッセと歩き、止ると暖まると、食うと、寐るとより外何有も考ゐないのである。

午後より暗雲半ば霽れて、一時日光を洩せしも、薄暮再び曇り、夜に入つて雪降る。此附近も矢張那爾轟の一地方で、韓邊外の飛地、西南岔に韓國の兵營が有る、鄉勇凡そ六十名、但し行政權は吉林將軍の權限にある、

沈家燒鍋の主人の話に、彼は今を距ること十九年前、此地方の有望なるを聞傳ゐて、其故鄉山東省海南府から遙々移つて來たので其當時黑石頭に開店一戶、官街に藥舖一戶あるのみであつて、今から思ふと夢の如な心地がすると、感慨の念に堪ゐぬやうであつた、今は北は二道甸門磊子まで馬車を通じて、南は林子頭まで馬車を通ずるが、森林中は路幅が廣いにも拘らず、馱馬若くは橇でなければ運搬は出來ない、殊にも夏期は森林中の道路一般の特種として濕地夥しく、溪流到る處に走つて交通に適せぬばかりでなく、冬とても氷ざ雪で路面は見ゐず、石礫散亂し、蟠根錯雜して步行に甚だ艱難である一軒屋から隣の一軒屋まで通うには何方へ行つても二三里から五里も跡まねばならぬ譯で、四邊は凡べて大森林、冬は滅多と足踏もならぬ。

京城たより

芝堂

●本年も業に既に餘日なく相成、何となく匆忙の心地いたし候處、地方騷擾の影響は何となく一般市況の不振を致し候

●地方騷擾と言はゞ、此騷亂は何時鎭靜に歸し可申哉、關心此事に候、當局者は勿論其鎭定に盡力せられつゝあらんも、更に沈靜の模樣なく、地方に依りては却つて火の手を舉げつゝあるが如し、サテ〳〵迷惑此上もなく候、暴亂鎭靜せざれば、如何は法令も、計畫も、企業も、更に實施する能はす候

●而巳ならず戰後漸く地方に發展せし同胞暴動のため被害甚しく、折角危險を犯し汗水流して、立脚の基礎を築きかけしもの一旦にして之を破壞せられ、流離顚沛、現に無一物となりて京城に逃げ延び、下宿屋の一隅に靑息を吐き居るもの幾人なるを知らす候、其甚しきは財產は固より妻子まで喪ひ、人生の悲慘を極むるものすら尠からす候、かくては韓國經營も覺束なき心地いたし候

●聞く種々なる官制法令等已に案成り、不日發布せらるゝとか、至極結構には候得共時に適せぬ献立は、頓と箸をつけられぬ次第に候、料理は鹽梅こそ第一に候

●韓國の現狀は渾沌時代に候、過渡時代に候、調査時代に候、試驗時代に候、この場合、矢鱈に堂々たる立派なる官制、法令を發布致候とも、文書上、外觀上には美且つ壯ならんも、實際には如何のものにや、疑問に御座候

●殊に司法制度の完成とか、創設とか、隨分司法制の事に付、說をなすもの有之候樣聞及び候、成程韓國の司法は不完全極まるものにて、其確立、其完成は最も急務には候得共、サテ之が實施の順序方法及び其緩急については、頗る考慮を要し候

文苑

盆竹　沒名學士

清貧守節野人家、不願櫻臺夢幻華、恰似燈痕月之曙、卜窓琅玕影婆娑。

大礮歌

是廿八珊米榴彈砲、彈丸重量五十貫餘、實爲巨礮、明治三十七、八年日露戰役之交、我軍用之、以奪敵膽、今移於東京靖國神社境內、其壯觀不可言。

白日雷霆怒、霹靂遶長城、發之咆哮猛驅動、兩片嶔丸飛縱橫、崩濤飜海魚龍隱、熱雪覆山獰鷲驚、居然形勝炙足恃、一戰殲敵十萬兵、奇捷凱歌入京洛、招魂祠畔赫勳名、永供衆觀思壯烈、瘦骨吾亦氣崢嶸。

遊熊野十二社

在東京府豐多摩郡淀橋町字角筈、祀熊野十二社權現、應永年間鈴木九郞創設之、境內幽邃可掬、夏時曳杖者頗多、而未知秋之奇也、甚爲慨焉、今押白、赤、黃、靑、黑成韻賦七言斷句五章。

奔湍呼雨聲無惜、蒼壁劈來鳴大石、人在危橋進不能、怯看脚底江韶白。

虞麗竹楊秋之夕、二月花紅逢不易、未命一杯眼欲迷、詩人面與霜楓赤。

半窗消鐵思茫茫、騷氣樓開水一方、洛後儉隱人在夢、夕陽鍊雨既昏黃。

風懷好向靜中聽、低唱重凭舊酒亭、苔氣一薰古洞畔、幕雲遙與笛聲靑。

燈花未上日西仄、飛濕當軒皺欲愁、雲去雲來茫不看、樹巓宵漢月猶黑。

小說　紲のみだれ（二十二）

永井櫻園

清之助は躊躇樣子もなく

「然う云ふ方が有る氣遣ひはありませんけれど、若も有たら私の方から頭を下げてた願ひ申しますわ。」

「そりや、必然だね。」

「はあ、必然です。」

「だけれど、藝人なんてものは口頭ばかりで心から何う斯う爲やうと云ふ氣は無いと云ふぢや無いか、お金子次第で何方にもなるだらう。」

すると、淸之助は怨めしさうに山田の顏を眺め

「……貴方は隨分酷い事仰やるのね、いくら藝人だつて其人に依りますわ、そりや口頭ばかりでお客からお金子を搾るを稼業にしてる方もありませうが、私が何で……。」

「那樣事は爲ないと云ふのか。」

「爲やうにも私には能ませんわ。」

「すると、若も其人が私のやうな男で、親兄弟や親戚から棄られても淸ちやんの爲に盡したいと云へば、淸ちやんも豈夫藝人根性は出さないで、心から夢のやうな間になる氣だね。」

「…………。」

淸之助は無言のまゝ山田の顏を樂しさうに見て嫣笑する。

「どうだ、可厭なのか。」

と、山田が答を促す。

「能く知つて居らつしやる癖に……存じませんよ。」

「では金のために言つて置くが、若も淸ちやんが見た夢のやうに、勘當されるやうな事があつても、藝人根性を出して其きりにするやうな事は無いね。」

「私ゆゑに、那樣事になりなすつたら……なりなすつたらと云へば、貴方のやうですが、私ゆゑに其樣事になつた方がありましたら、私も何處までも其方には盡します。」

「必然だね。」

「はあ。」

「イヤ、それさへ聞いて置けば大に安心だはゝゝゝ。時に翠平の次は何方だね。」

「まだ確な事は分りませんけれど、大方は東京亭に極るだらうと思ひますの。」

「隨分遠方だね。」

「宮松からも小川亭からも引張合なんですから、宮松なら近くて可いと思つて居ますの。」

「大した勢だね、それも淸ちやんと云ふ花形が居るからだ、師匠は甚麼顏してる、ホク〳〵喜んでるだらうね。」

「あら、私なんか何でもありません、皆な師匠樣のお顏です。」

「そりや師匠の顏もあるにはあるが、目的は淸ちやんなんだよ。どうか確り賴むよ。」

「遠くツても偶にや入來して下さいね。」

「偶にとはお辭だね、淸ちやんが出てから唯の一晚でも缺かした事はない、何せ每晚一緒にと云はないのだ。」

と、笑ひつゝ云ふ。

「では、お可厭でせうけれど是非御一緒に……。」

「ではとは恐れ入るね、はゝゝ笑談は笑談として、淸ちやんの出る席へは、野の末山の奧でも出掛ける、其代り往は一緒と云ふ理に行くまいが、返には是非ね……可いだらう。」

「はあ、樂みにしてますわ。」

東京電報

▲義和宮歸韓
義和宮殿下には昨夜下の關より歸韓せられたり

▲韓太子馬關着
韓國皇太子の一行は本日午後下の關に着御渡邊山口縣知事寺原福岡縣知事以下の出迎ひあり尚下の關御滯在中は學生の運動會、提灯行列、花相撲等を御覽に供する由(以上七日發)

▲漣無事引卸さる
平戸沖に座礁したる驅逐艦漣は無事引卸を終て平戸の北部に引入れたりとの公報ありたり

▲倫貝子の謁見
清國答禮大使倫貝子は九日參內　兩陛下に謁見了りて午餐會ある筈なり

▲倫貝子の東宮訪問
清國答禮大使は明七日東宮御所を訪問し夫より目黒競馬會に臨むべし

▲伊東中將告訴さる
海軍中將伊東義五郎氏は今日有夫姦として東京地方裁判所に告訴せられたり

▲韓太子着京期
韓國皇太子は十五日午後二時四十分御着京の豫定なり(以上六日午後發)

雜報

太皇帝の慈愛
皇太子の御乘船滿州丸が風波のため動搖して爲めに一夜御安眠あらざりしこと太皇帝の上聞に達しいたく御心痛遊ばされたるは下臣の察するに餘あるとなるが尚御出發の後は一層に皇太子の御安否を氣遣はれ一昨日も岩田寫眞師を宮中に御招きあり嚴妃と共に十四樣の御撮影あり出來上り次第早々皇太子に御發送相成る由御慈愛深きと下々の感服すべきとなりと一宮臣は語り居たり

韓太子の馬關着
韓國皇太子には七日午前七時二十五分無事下の關に着御相成りたるが右傳奏ありたき旨宮內大臣閔丙奭に宛て報聘大使李載冕より電報ありたり

義和宮歸京
義和宮殿下には昨朝一番の連絡船にて歸韓せられ十時御上陸の旨宮殿に電報ありたる由にて本日は多分入京あらせらるべしと

京城日報獨立（統監府との絶緣）
統監府の御用紙なる京城日報は昨年九月創業以來伊藤祐侃氏に仍て經營せられつゝありたるものなるが來春一月よりは全然同社の組織を變更し統監府との金錢上及其他の關係を絶ち一個の獨立新聞となりて大發展を試むる由傳へらるゝ因に右組織變更の際に有名無實の同社長伊藤祐侃氏は退隱せらるべしと云ふ

●天寶山の邦人　林駐清公使が清國政府に申込たる間島問題に關する抗議中天寶山銀鑛の日韓人退去命令が不法の一項を有するが由來同鑛の經營は日清人合同利益均分主義によりて採掘せられ日本人側代表者は舊[illegible]清語學校々長中野次郎氏にして配下には同校卒業生にして最も清韓の事情に精通し且つ何れも相當の學識と志望を有せる三十餘名あるに過ぎず而かも同鑛は四邊の交通非常に不便なると清國官憲の壓迫と暴行は屢々一身の危險をさへ感ずる位なるが現に過般某國陸軍除隊下士等三名は職を滿韓地方に求めて計らずも同鑛に至り少時採鑛に從事したるも遂にその危險と飢餓に堪へずして空しく歸國したる例證あり以て同鑛に於ける邦人の苦痛が如何に尋常事にあらざるかを知るに足るべしと某間島通は語れり

●一進會雇員　過日皇太子本邦渡航の爲仁川へ下向さるゝに當て一進會は富平素砂停車場に於て二百名許りの會員を集めて奉送したる由なるが後にて聞けば右會員と稱せし者の多くは若干の日當にて雇入れたる者にて眞の會員にはあらざるとのことなりしゝ然るにても何の爲に假稱會員を列べて奉送したるにや、韓人の妙智深謀吾人を以てしては測度し得べきものにあらず

巖島暴徒續報
東大門外巖島に暴徒襲來せし由は已に昨紙報せる所なるが其後暴徒等は同地より東北約二里の山中大成庵に潛伏せるを探索し福田警部の一行は郡山騎兵大尉の率ゆる騎兵三十名と協力し同地を包圍して大攻擊をなすべき目的を以て昨朝九時同地に向ひ出發し一面被害者救護に當れる巡査部長は被害者の手當を終り巡査四名巡檢四名を率ゐ前進隊と連絡を取るの目的を以て追進したるが福田警部の率ゆる一隊は午後一時半目的地なるサカ山の寺院大成庵に到着し其附近に屯集する暴徒約五十名に對し猛烈の射擊を加へ遂に賊三名を斃し五六名の負傷者を出さしむ暴徒は一時頑固に抵抗せしも三十分の後遂に山を越て東北に潰走するに至り一行は尚ほも進擊せるが攻擊に先ち騎兵隊は騎馬徒步の二隊に分れ共に運動せるも遂に連絡を失し警察隊は獨力運動せざるを得ざるに至れり爲に敵に損害を與ふるもの少なかりしは甚だ遺憾なり此攻擊に於て捕虜一名と左の物品を鹵獲せり洋式軍銃四挺、刀二本、火藥籠十一個、火繩銃二十二挺、彈藥四袋、毛布二十三枚、衣類十二點、外套一枚、布八卷、洋服一着、金三圓五十二錢韓兵帽二個、合財袋五個
外に軍隊將校步兵操典其他印章書類數點あり而して福田警部の一隊は午後六時三十分歸署せり
尚今曉暴徒の爲め拉去せられ拘禁せられありし巡檢二名も無事取還したり

全邑皆賊
報恩郡暴徒南致三外二名逮捕事件に關聯せる殘徒搜索のため同地警官は本月二十八日巡査四巡檢五通譯一を率ひ報恩郡に出張し同地守備隊長宮內大尉の援助を得翌二十九日未明一部隊は清水民治を捕縛せる共犯者なる山內面居所に他隊は北村夫妻を捕縛せる主犯者水汗面並院の居所に向ひ其の逃路を扼し之れが搜索に着手したるが山內面の殘徒は既に我か搜索隊の到れるを察知し着手前包圍を脫し逸走を企てたるも守備隊の周到なる搜索により犯者十一名を逮捕し取調べたるに彼等は何れも前報南致三等の共犯なるのみならず本年八月三十一日討伐隊が報恩に入りたるとき暴徒に與みし敵對せし事實判明せしを以て之れを守備隊に引致せんとしたるに彼等は頑強に反抗し逃走せんとせしに依り當面の部隊長春山特務曹長と協り遂に之れを銃殺せり水汗面の殘徒は部隊長中牟田中尉の指揮下に略ぼ犯者を確かめ逃走を企て爲に銃殺したるもの十二名就縛したるもの十六名にして午前九時搜索を終へ守備隊に引揚げ逮捕せし十六名に就き嚴重なる取調べをなしたるに此外逃走を企て我射擊により斃れたるは皆殘徒の一部にして北村夫妻等を捕縛し暴徒首魁に渡して賞金十圓を得爾來暴徒に附隨したる主犯者並に院里長崔有朴外二十二名なること判明せり而して就縛者中良民たるを確認せしものは即日之れを放還せり尚彼等殘徒は日本人と見れば捕縛殺害其の他暴徒に加はり諸方に掠奪を逞ふしたる事實あれば早晚逮捕の免かれざるを自覺し早くも逃走の準備をなし居たるものゝ如く居宅は破れたるも屋根の葺替をなさず收穫の米、大豆等は一粒も居宅に置かず甚だしきは日用の炊事器具に至るまで之れを搬出し何れにか隱匿したる形跡あり此外南致三外二名は取調べの結果日本人清水民治を殺害したること及當時暴徒に與みし討伐隊に敵對したる罪跡判明せしを以て來る十二月三日軍律により銃殺に處する筈

賊分派所を襲ふ
去る四日朝四時頃約五十名の暴徒全濟分派所を襲擊し田中巡査は家族と共に月峰山鑛業事務所に避難したりとの報に接し增田警部は直ちに巡査七巡檢五を率て急行せりと

●暴徒歸順　氣候嚴寒に迫ると討伐隊の着々步武を進むるとにより暴徒も日に逼息し追々歸順者を生せしが爰に高安を距る二里餘の汶湖に於て白五汝以下五名は村長を介して歸順を申し出で火繩銃二挺を提供せりと彼等は何れも韓曆八月中賊魁金春朱の强壓的募集に應じ洪川方面に於て暴行を逞うせしものなるも今や到底暴徒の事を遂ぐる能はざるを悟り衷心悔悟せしものゝ如きを以て村長もこれを保證したりといふ又高安に於て元分院の村長たりし韓寶汝（一）及び元區長たりし張柱元（五十）の兩名も賊首申昌賢の强壓的募集により村民を代表して金二十圓と白布若干を携帶し楊根郡古邑に至り賊徒と居を共にし其後各地に潛伏し居りたるが是また去る五日現村長及び同村自衛團長を介して歸順を申出たりと云ふ

巖島の被害者
巖島襲來の暴徒に殺害せられたるは京都府平民菓子小賣商出雲龍太郎（三十）と稱するものにて負傷したるは島根縣平民木挽職橫田常次郎の二名にして龍太郎妻村岡ゆき（二十）娘（三つ）外に巡檢二名は暴徒のために一時山中に拉し去られたるも妻と娘は一昨日午後四時一韓人に助けられ無事歸還し負傷者は京城に護送して漢城病院に入院せしめたり

●稅務監督局設置　度支部に於ては今回十三道に稅務監督局一ヶ所宛を設置することゝなしたりといふ

●民團稅法調查會　京城居留民團に於ては來る十四日頃民團稅法調查會を開き民團稅法に就き調查を遂げ各有志の意見をも徵するといふ

女學校創立委員會
民團役所の創立せんとする京城高等女學校は其後着々準備を進めつゝあり昨日は午後一時より創立委員會を開き經費及其他の協議を遂げたるが工事は本年中多分着手し難しと云ふ

●學級編制協議會　本日仁川民役所樓上に於て小學校四十一年度學級編制の協議會を催したり

●大韓每日申報の誣謗　例のベッセルの發行する韓文大韓每日申報は去月二十八日の紙上に度支部印刷局に於ては日韓人が各項に印刷を相互に從事し居りしが日本人は韓人に對し虐待を加へ且つ數へ難き程毆打し臂を折り脚を折るもの又は頭部及び面部に負傷したるもの多數あり之を以て見れば日本人が韓人を驅逐する計畫なるか又は日本人を多數に雇聘する計策なるべし云々と記載せしことありしが右事實の有無を取調べたるに龍山印刷局には之に似寄の事實すらなく察するに從來日本人に惡感情を懷ける同局內一職員が何か爲めにする所ありて此擧に出でたるものならんと察するの外なしと當局者は語れり

●內部便器打破　韓人の習として從來內部に於ても各官室內に便器を備付ありしが今回同部日本人官吏某氏部內清潔法擔當となり每日各局課を視察し若し例の便器目に觸るゝときは直ちに破碎しつゝありと

鑛業許可
十二月三、四日附を以て左の礦區採堀權を許可されたり
亞鉛　五九四、四九〇坪慶尙南道昌原郡上南面、京城中署瑞麟坊典獄德田啓平外一名
砂金　一三六、八〇五坪安南道順安宮龍興面、京城南署美洞　趙東元
砂金　二七六、九〇〇坪忠清南道靑陽郡邑內面外二面、京城南大門通三丁目三好方健山義英外一名
砂金　五十四丁一間同道木川郡邑內面、京城旭町一丁目、小森虎吉外一名
砂金　三八、六三坪平安南道順安郡龍興面余所、李營璡
砂金　六七〇九坪忠清南道木川郡邑內面、小森虎吉
砂金　八四、一七七坪同所、同人

韓國航路商船客室改革
大阪商船會社にては去る二日より韓國航路使用船中左記の船舶に於る一等室を廢したり
群山丸、木浦丸、安東丸、隅田川丸、筑後川丸
右に就き當地支店に聞合するに從來の一等室を二等室に充て二等室は特別三等室と爲し三等室の半ばを改造して貨物の積載量を增加したるものなれば二等の船賃を以て一等室を占め三等船客にして早く乘船せしものは特別三等室を占むる譯にして一面より見れば運賃を低減せしものなり今一等室を廢したる理由を聞くに從來一等客は實に稀にして各種の設備を爲し置くの必要を認めざるより之を廢し兎も角當分實行して其成蹟を見る筈にて去る二日の群山丸より實行し居れり

●木浦丸の補充　木浦丸が火災に罹りたる事は昨紙記載の如くなるが該船修繕中京城丸を補充し仁川大阪の定期航海をなさしむべしと

●郵船の船繰　日本郵船會社の樺太航路は近々中に結氷するを以て其の航路船なる高松丸と上川丸とは大坂に回送され直に大坂仁川間の航路船に充てらる由なり

●平壤地方の寒氣　同地方韓人の古老に就て聞く所によれば同地昨今の寒氣は生來曾て覺へざるものにて要するに斯の如きは恐らく百年來未だ之れ非らざるの寒氣ならんと稱し居れりと

仁川輸入品商況（續）
▲板材木類　一月二月は沍寒の爲め諸般の工事休業に伴ふて賣行僅少なりし三月に入り當港大火災は建築用材及其他の材料を要するに至るべきを豫想し沿岸より多少の輸入ありたりと雖も工事の着手は尚此の後に在るべきを以て需用未だ啓けず當港材木商は輸入計畫中に在りしが四月となりては氣候暖溫となり建築の土工の季節に入りたるを以て板材木の需用著しく增進したるに加へて當港火災後再築計畫も已に熟し五月に入りては早着々として再築工事に取掛るあり此際に於て日本より板材木類の續々輸入せられ其額頗る多きに達し一時荷閊への狀況を呈したりしが京城龍山に於ける大規模の建築工事は殆んど先づ一段落を告げしと雖も邦人の增加に伴ふて店舖住宅の增築を促し小建築工事は尚ほ彼處此處に營まれつゝありて相變らず好況を呈したり七月以降九月に至るも引續き相應の需用あり先年の如き纏まりたる大口の需用は之れなしと雖も賣行き好況なりき

△建築材料　本品の商況は大約板材木と同一にして絮說するの要なし當港に輸入せられたるものは品相應に賣行くべきは言を俟たず左れば本品本年中の輸入額と最近一兩年間との對照を示すに於ては其需用如何に增減せられしかを知るに足らん

（一）セメント及石炭

	一季	二季	三季	四季
四十年	七、〇八五	三三、九〇七	三八、九〇四	—
卅九年	五〇四	三三、六九〇	三七、三六一	五一、五三二
卅八年	一、三九九	三、七二八	七、三四二	一四、四三三

（二）建築材料

	一季	二季	三季	四季
四十年	七、八〇五	三九、九〇七	一五、五二〇	—
卅九年	三〇、五二〇	一、三九二	三六、四七五	三、三四〇
卅八年	七、一四八	二四、一六五	二七、一八六	一九、二五四

（三）煉化又瓦

	一季	二季	三季	四季
四十年	七、七七四	八五	一六、五八九	—
卅九年	九六三	七、七五五	三七、三六一	一六、五五六
卅八年	八、五五九	六、〇七三	三、九四八	五、八二五

（四）竹材

	一季	二季	三季	四季
四十年	一、六三八	五、三三六	一、三二八	—
卅九年	一、四二五	一、七〇三	三、三二〇	二、七五五
卅八年	七三六	四、七一五	二、〇三三	一、四〇一

（五）ペンキ及ワニス

	一季	二季	三季	四季
四十年	三、三八一	三、五〇六	二、四四八	—

（六）マルソイド

	一季	二季	三季	四季
四十年	—	四、〇六四	四、五五五	—

●仁川午砲用火藥下附　昨日愈々仁川午砲火藥を軍部より下附到來せるが同年間分程の多額なりと云ふ

●邦人の宮內判任官　本邦人にして韓國宮內府判任官に任命せられたる者昨日の官報に依り發布されたるものは內藏院主事に原吉丸、末松多美彦、山下傳吉、川崎源藏の四氏にして原氏は判任三等他は判任四等也

●寺田大尉上京　仁川陸軍運輸部副支部長寺田大尉は事務打合せの爲め昨日上京し經理部に赴けり

●加福商船の歸阪　過日韓國狀況視察の爲め在仁中なりし商船會社支店運輸課加福交外係長は昨日歸阪せり

●平南間航行杜絶　平壤、鎭南浦間の航路は非常の寒氣にて大同江は去る一日より全く結氷せしを以て二日より交通杜絶するに至りたれば兩地間の交通は兼二浦まで鐵道によるの外なしと云ふ因に同江の結氷は昨年に比し十二日間早しと

新義州通信
十二月五日　春郁生

▲新義州興農會　果樹、蔬菜を栽培し蠶種を試育し林業、農業及蠶業の發達を企畫し土地の爲めに貢獻するの目的を以て起りたる新義州の興農會は成立後其會員中にて更に韓國作蠶興業組合なるものを組織し作蠶事業を經營するものありて或は當初の目的の一部に若し多少にても重複を來たし紛擾を惹き起し爲めに折角の目的を遂する能はずては双方の爲め不利益なりとの話より同組合に關係ある人々と興農會員との間に話熟し穩當なる或條件の下に分離することゝなり興農會は更に組織を改め其會員の如きも新義州人士のみとし岩永重華氏を會長に推薦して同意を得更に左の通役員を選擧し着々事業の經營に着手する由なるが作蠶興業組合と云ひ興農會と云ひ斯の如き有利有益なる事業に對する團體の發達は深く賀すべきなり
會長　岩永重華　理事　大久保子之吉
理事　自在丸貞次　同　大谷松次郎
同　正本清次郎

▲鴨江の渡江難　流氷盛なる爲め非常の危險なるより中止の姿なりしが要用者は渡江せんと朝來ひし〳〵詰め掛け渡航會社へ迫るより同會社にて全然不可抗力と稱すべき迄もなければ渡航者の爲め昨日一應視察し其危險なきを見て午後一回の渡船をなせりと而して其賃金は一人四拾錢なりと云ふ

●美以教會の日曜說教　旭町二丁目の同教會にては本日午前十時より聖書研究會を開き十一時より木原牧師の「不完全と罪惡」なる禮拜說教あり又午後七時半よりは未だ基督教を信ぜざる人士の爲めに傳道說教を爲すといふ

●日曜講談　竹洞京城基督教會に於ては本日午前九時半より日曜學校を開き同十時半より禮拜說教東京番町教會牧師綱島佳吉氏の天父と題する說教あり有志者は來聽を希望すといふ

▲治外法權▼
叡山の僧も鴨川の水も双六の賽も又兵衛の娘もそれ〴〵の勢力で「ドウでもなるが僅にならぬは民間新聞なりとは伊藤公の歎する歎聲である▲ソレがサヲヌか近々鶴原長官が退職せらるゝと同時に統監府の對民間新聞政略が變更するソウである▲一体始から統監府の新聞政略は間違つて居る、辛苦經營數年の歷史を有した大東、漢城の二新聞を强制的に買潰したのが間違つて居る、ソシて其代りに御用新聞を作つたのが間違つて居る、且其上に水平以上の善人なる伊藤祐侃君に月俸三百圓を與へて日報經營の任に當らしめたのが間違つて居る、鶴原君にはドウ見えたか知れぬが假令大東廢し漢城滅したからとて民間新聞は全滅したのではないのである▲鶴原君の新聞政略が一方に於て幅を利かせる代りに民間新聞の勢力は益旺盛になつたのである、而して其數も殖えたのである、抑ゆれば抑ゆるほど膨脹するのは日東帝國と新聞である、世に新聞ほど厄介な者はないと伊藤公が常にコボさるゝのもこゝの事である▲吾人の先鋒たる民間新聞の數は京仁に於て目下四ッである、而して內地大新聞の通信員が十數人居る、而して是等民間新聞の記者及通信員諸君は韓國經營上官吏以上に功勞を有して居るのである、故に是等の諸君を無視して韓國經營が出來ると思ふはソレは大なる間違である▲我皇太子殿下奉迎の際に社會の耳目たる新聞記者を判任官溜りに入れんとしたる統監府も此頃は少しは目が醒めたものと見へる、何となれば近々の中に從來の愚なる鶴原式新聞政略を捨てゝ文明式にするソウであるからである

「無限の熱血」を讀む　十生

忘れんと欲して忘る能はざる心の傷痕を癒さんとて君は、孀婦人だんには淚に濡るゝ餘り、空しく素志を挫折するに至るべけんも、一旦思ひ立ちし道を辿る毎に益々意志の強固を來し、志業の發達を生ずるは君の性格たる以て、君は愛に彌が上にも勇進邁往の氣象を鼓舞し、倒れて後已むの慨を以て孜々汲々之が經營に當りたり、而して君は愛に孤兒救育の徵々として振はざるを慨し『孤兒院併立の希望』なる題名の下に都下に之を紹介せんと欲し、卅二年三月君は生徒四人を引率し都下巡回の途に上りたるが、成績は果して豫期に違はず、大に江湖の賛同を得、又貧兒の入寮を乞ふもの續々として踵を接するに至り、今茲に當時に於ける比較表を掲げんに

通學生二十二名養育生二
卅年卅一年間には通學生四十八名養育生四十六名卅二年一月には通學生四十名養育生七十名卅三年一月には通學生三十一名養育生八十六名卅四年一月には通學生二十一名養育生百二十名

されど貧兒の基礎は未だ確立なるものに非ずして、而も比較的多數なる貧兒及孤兒を入寮せしめしかば、之が當面の經費の支途に就き非常なる困難を來し、窮厄困頓殆んど其の施すべきものなく一時は如何せんと私かに苦慮する處ありしが、君は依然として平生の態を變じ、必ず一年に一回づゝは各々新衣一領と帶手拭玩具等を給與し來りたりしが、今は夫れすら給與する能はずなりしかば、兒童等の落胆又一層にて頑是なくも聲を擧げて泣き叫ぶさまに君は宛かも腸を裂かるゝが如き心地しにき、而も君が夫人は此の窮危の渦中にありながら、能く君を慰め且つ勵まし、君をして常に失望銷沈の淵より救ひたりしなり。君は妻の限りなき慰籍と鼓舞とに依り幾回か沮喪失明せんとせし心を喚起され、愛に層一層の決心を以て、廣く一般の篤志家に訴へんとし、卅一年十月完全なる幻燈の設備を作らんとし、東都に上りたるが、歸途の際疎て恩惠に浴せる北白川宮殿下を初め高崎男細川侯細川男清浦奎吾氏長岡子其他各貴顯の一瞥を蒙り、更に切々感激する所ありき、而して歸來尽々寮員と共に輕裝を爲し、新製の幻燈器械を肩にして、縣下は勿論普く近縣を巡回せしに、這度は前回に比して多大なる同情を寄與され、而して之が寄附金の如きも著るしく増加し、寮運降々今は又曩昔の窮狀を見ず、貧兒等の悅び又譬ふるに物なく、嗜々として學科修身を敎ゆる風むに至りた、斯くて寮運益々順境に向ふや、從來の家屋にては到底狹隘を告げ、又其毀損頽壊の個所數多ありしを以て爰に之が大修繕を施し、同時に又兒童の入寮を許して大に規模の宏大を見るに至りたり。

●本年の傳染病　本年一月より本月七日に至る本邦人傳染病者の數は百六十一名にして內腸窒扶斯九十八人、虎列剌三十五人、赤痢十八人、天然痘十八人、實扶垤里亞二人、猩紅熱一人なりし內死亡せしもの六十九人にして餘は全治せしもの最も腸窒扶斯の二十二人の多數に上れり而して之れが發生期は七八九の三ケ月最も多く虎列剌病患者は當地に於て特發したるものにあらず馬關地方よりの輸入にして死亡者は同斯病患者中龍山鐵道管理局官舍にて發生せしもの患者多數を占め居れり

●撒水は注意すべし　最早嚴寒の候に達し道路氷結するに至りたるが各戶に於ては道路に水を撒くものあるは往々之れを認むる所なるが之れが爲め忽ち氷結して人馬の通行に甚だ危險なれば此際撒水は各自注意ありたきものなり最も撒水に就ては領事館時代より之れが取締令もあることなれば尚一層注意すべきなり

●貧兒寮の幻燈　熊本貧兒寮員の一行は各所に於て幻燈を催し多大の同情を惹きつゝあるが一昨夜は南山町の小川靖雄氏宅に於て開催し多數の參觀者ありたりと云ふ

●藝妓酌婦の屆出に就て　各料理屋就中小料理屋に於て藝妓を抱へながら之れが屆出をなさず遊客の座敷に侍らせ民團の藝妓稅を脫せんとするもの往々あるは甚だ不都合の所爲に就き民團役所に於ては之れが弊を防ぐ爲め警察と打合せ一々取調べをなし此等の料理屋はドシ／＼檢擧し相當の處分を加ふると云ふ又各飲食店に於ても酌婦を雇入れながら其屆出を怠り酌婦稅を脫せんと圖る者少からざれば此等も同樣處分する筈なりと

●いかに醉中とは云ひながら　身は陸軍砲兵第九聯隊第何中隊の砲兵少尉何某といへる襟を帶ぶる者にしてこの振舞は何事ぞ時は一昨六日午後十二時頃本町一丁目の理髮業高城淸吉の妻が雇人岡田金藏(三十)を連れて旭町一丁目を通行の際に一人の男腰に洋刀を引きずり踏蹈跟として突つ懸り臭い息を吹きながら懷きつき强いて接吻せんとするより淸吉の妻は驚いて突き放さんとせしに執礙と捌つて放さず剩へ尙も猥褻の行爲に及べるより悲鳴を上げて救ひを求めたり此の時連れたる金藏は遙かに後れて來り居りしが此の聲を聞きて驅けつけ來り己れ何者にて斯くも亂暴のこと爲しけるかと詰責せしに男は威丈高となつて我が軍人なることは此の徽章にても知るべきに汝はこれが見えぬかと言ひ樣金藏の襟首を捉へて胸元を突きさした鐵拳を振ふて其天窓を四五度劔打し左足を擧げて腹部を蹴りあげ國家の干城たる軍人を見知らぬ馬鹿野郎奴今少し懲らしてやらんと相手の穿ちし下駄を手に取り將さに振り廻し其の頭腦微塵にならんとする一刹那巡邏の警吏斯くと見て二人の中間に割り入りたるより金藏は僅かに危難を免がれたるが暴漢は夫れと見るや己れ猪口才な巡査面何を爲し居るぞとこれに取つてかゝり暴言を放ちつゝ益々暴行を逞うせんとするより警吏も負けず劣らずこれを取り押へんとして押しつ揉まれつ龍鬪虎搏の戰ひを爲しける際又もや一人の警吏來かゝりて難なく取り押へ姓名を糺すと砲兵少尉何の誰と答へしが泥醉者と認めて警察署へ連れ歸り定めて醉の醒めたる頃大眼玉を喰されたるなるべし

●我物と思へば　輕し傘の雪とは此事でおらうと書き出す一つの物語りこそ面白けれ去る雪降りの夜であつた夜もいたく更たとまではいかぬけれど彼れ是れ十時頃であつた夜目にもそれと知るき小意氣な番頭風の好男子年は三十路の上はよもや越すまじと思はれた見れば見る程何店かに勤めて晝は火鉢の側に脂下り居る男らしかつたさても此男六花繽紛と降り頻り北風身を斬る如なにも構はず茶色のインバチスを肩にスラリと引懸け蛇の目の傘指翳し綿の如な雪を受けながら大和町の新道をスタ／＼と東を指して我物と思へば輕し傘の雪北風寒く千鳥啼かぬぞ怨みなりと小聲で唄ひつゝ行くものあり此寒ひのにハテ殊勝な妹許通ひかなと思ひ此方に行拔けたが思へば何となく跡を尾けて見たくなり罪とは思へど五吉勞にも雪降りの中を傘も騷さずヤントの頭巾眉深に冠り後れはせじと尾き來るものもありとも知らず件の男は人影なき所に出づれば又も我物と思へば傘の雪かと小聲の端歌で新橋を渡りて遂に新町の裏通りに入り數多の靑樓のある中の皆春樓へぞ這入りける我も之迄尾いて來たのに後の狂言を見ざるは如何にも殘念とトッ／＼入らつしやいの聲に釣り込まれ程好き敵を見立て一杯傾けながらそれとはなしに以前の男の事を聞けばハア、アの人ですかアの人は或る大商店の一の番頭さんで近頃評判の小花魁の情夫で金離れも好い人でたまして小町さんとは夫々の深間ですが此頃では双方とも此寒氣にさへメヤす大熱々でありますが今分で長く縮からものなら心中でもするか到底も唯死はしまいと案じども心の中に氣遣ひ居る位ですとの話しに成る左樣の譯か道理で我物と思へば輕し傘の雪千鳥にあらぬ小町許りか

社告

廣告係一名至急入用
希望の仁は本社へ來談あれ

十二月　京城新報社

●山邑支店開設　攝津灘の酒造家山邑太左エ門氏は今回南山町四丁目に支店を開設し本月一日より營業を開始せしが披露として其釀造に係る櫻正宗、正吉、豐、魂等の購買者に對し本月五日より一週間景品を呈する由なり

●今晩の藝題　若葉會今晩の藝題は廣津柳浪作『畜生腹』にして重なる役割は如左
丹治重三郎(岩尾)書生花田(池田)藝妓小六(花井)下男力造(千鳥)丹治妻れとよ(橋)下女た竹(高木)老車夫藤助(正月)惡婆れちか(小喜多村)女學生春子(小山)藝妓豐助(東)銀行員山川(永島)山川妻淺子(淺井)女乞食れとら(瀨川)

日本　韓國　安東縣

鐵道輸送連絡案內

今回新に當局線、帝國鐵道廳線左記各驛相互間發着旅客荷物の連絡輸送並運賃其他諸掛費着地拂及草梁に於ける通關代辨取扱を開始し連絡荷物は至極御便利且迅速に運送可仕候但運賃等の着拂及通關代辨は荷主の希望する場合に限る

◎新に旅客又は荷物の連絡を開始したる連帶驛

○統監府鐵道管理局線
草梁西大門間、仁川梧柳洞間各驛

○帝國鐵道廳線
關西線　○彌富、○桑名、○四日市、○津、○松坂、○山田、○上野、○奈良、○櫻井、○畝傍、○高田、○五條、○高野口、○粉河、○和歌山
九州線　小倉、博多、久留米、羽犬塚、矢部川、大牟田、上熊本、八代、八幡、佐賀、武雄、有田、長崎、佐世保、直方、行橋、守佐、若松、唐津、伊万里

△前記各驛相互間は十二月一日より旅客貨物の連絡輸送の取扱を爲す
但○印を附したる驛は旅客及手荷物の連絡取扱を爲さず

○統監府鐵道管理局線
京義線　開城、平壤、新義州、安東縣
馬山線　洛東江、進永、馬山

○帝國鐵道廳線
東海道線　新潟、橫濱、沼津、靜岡、名古屋、一宮、岐阜、京都、大阪、神戶
北陸線　福井、金澤、高岡
山陽線　兵庫、明石、土山、姬路、網干、龍野、岡山、福山、松永、尾道、糸崎、廣島、橫川
關西線　下關、福島、鶴居、廿地
九州線　四日市、和歌山、門司、博多、小倉、若松、久留米、熊本

△前記各驛相互間は十二月五日より大荷物に限り連絡輸送の取扱を爲す

◎當局京釜線と東海道線、北陸線、山陽線この旅客、荷物及京釜線と九州線との旅客、小手荷物の連絡取扱方は總て從來の通に有之候
◎連絡旅客、荷物取扱方に關する詳細の手續は最寄停車場に就き御承知相成度候

明治四十年十二月
統監府鐵道管理局運輸部
電話八百五十一番(營業課)

第四回決算報告

貸借對照表

借方

一 定期預金	一六四、〇六四・九八〇
一 當座預金	五、四三五・七八〇
一 組合員	三七〇、二五〇・〇〇〇
一 家屋	九六二・八八〇
一 什器	五五一・九一〇
一 立替金	九七・一八〇
一 假拂金	五二六・〇〇〇
一 現金	五一三・二三〇
合計	五四二、四〇一・九六〇

貸方

一 基本金	一六〇、〇〇〇・〇〇〇
一 積立金	五、〇〇〇・〇〇〇
一 保證手形	三七〇、二五〇・〇〇〇
一 前半期繰越金	三五・二八五
一 當期純益金	七、一一六・六七五
合計	五四二、四〇一・九六〇

損益計算書

利益之部

一 加入金	三八・〇〇〇
一 手形用紙代金	四六・四四〇
一 保證料	四、三〇〇・九〇五
一 預金利息	四、八四八・五四〇
一 雜收入	七三・八一五
合計	九、三〇七・七〇〇

損失之部

一 諸經費	一、七〇三・一八〇
一 割戻保證料	四七九・八五五
一 雜損	七・九九〇
一 當期純益金	七、一一六・六七五
合計	九、三〇七・七〇〇

利益金處分

一 金三十五圓二十八錢五厘 前半期繰越金
一 金七千百十六圓六十七錢五厘 當半期純益金
合計 金七千百五十一圓九十六錢
內
金六千圓 積立金
金八百三圓 役員及事務員賞與金
金三百四十八圓九十六錢 後期繰越金

右公告候也
隆熙元年十一月

漢城手形組合

入院隨意

十全病院

京城旭町三丁目
電話七三七番

入院隨意

京城醫院

京城壽町一丁目
電話七四二番

開業廣告

肅啓寒氣漸ク相加ハリ候處各位益々御隆昌之段大慶此事ニ奉存候陳者弊社儀今般當地ニ支店ヲ設置シ本月五日ヨリ開業仕候間何卒相當ノ御用命御仰付被下度御懇願申上候營業科目其他ハ左ニ掲記ノ通リニ有之充分各方面トノ連絡ヲ圖リ專ラ確實迅速ト御便宜トヲ旨トシ着々經營ヲ進メ度微意ニ御座候得者幸ニ右御高含ノ上長久不斷ノ御眷顧ト御指導ヲ賜ハランヿ渴望ノ至ニ不堪候 敬具
追テ營業其他ニ關スル詳細ハ當支店ヘ御下問被成下度候

韓國倉庫株式會社

本店 韓國釜山佐藤町二十二番地
仁川支店 韓國仁川港本町三丁目七十番地 電話番號八十四番
支配人 原信太郎 事務所內住居

營業科目
一 倉庫業
二 運送業
三 以上の目的を達するに有益又は便利なる業務

資本金 貳百萬圓
本社 釜山
支店 仁川、京城、大邱、平壤、木浦、群山、鎭南浦、元山
出張所 東京

相談役 相談役 專務取締役 取締役 取締役 取締役 監査役 監査役 監査役 監査役

男爵 澁澤榮一 大倉喜八郎 佐々木清麿 室田義文 大橋新太郎 賀田金三郎 中山希賢 早川鐵治 尾高次郎 迫間房太郎 大池忠助

豫約出版廣告

東宮殿下御渡韓紀念
京城居留地及名所舊蹟 寫眞版（コロタイプ）帖（横一尺三寸 竪九寸五分）

右は皇太子殿下御來韓に際し京城居留民團より獻納の榮を得たる者にて今回爲紀念出版することゝ爲せり豫約希望の向は部數に限り至急御申込相成度し

一部 定價金三圓 豫約金二圓五十錢

一 豫約申込期日 本年十二月十五日限り
一 出版配本期日 本年十二月二十五日

本帖は原版に依る寫眞版（コロタイプ）にして出版者及寫眞師は民團の依囑に應じ圖案及寫眞に意匠を凝せし者なれば其の體裁は毫も獻納品と異なる者なく表紙も亦原圖に依り金入數度摺の緻密精巧なる石版に附したる者なり

明治四十年十一月

出版者 杉原忠吉
寫眞師 岩田鼎
京城南山町二丁目

豫約申込所 京城本町五丁目 野村孝造 日の出屋

營業科目
活版活字鑄造
石版銅版
コロタイプ
彫刻諸印刷
諸帳簿
製本裝釘

本社 京城西署西小門內（電話三二三番）
仁川出張所 仁川港海岸埋築地（電話仁川二五五番）
東京出張所 東京市京橋區南鍋町二丁目十番地（電話新橋三九六二番）

日韓圖書印刷株式會社

廣告

往診午前
宅診午後
但し急患者は隨時往診
京城貞洞大漢門前
入院隨意

蘇生病院

日韓病院

一般患者之依賴に應す

京城新王城大漢門前
院長 橋本三男
醫員 吉田定見
同韓國軍醫 蔡永錫
藥劑師 濱口源太郎
會計 井口平治
隔日出張 龍山青木病院長 青木淸六
入院隨意

會席御料理

並に仕出し大勉强仕候
京城本町座隣
電話六三〇番
蝶々

丁稚入用 但十才以上十五才迄
京城本町一丁目（郵便局前）
若林支店（電話一四七番）

開店廣告

神佛葬具請負 並ニ佛具販賣

御一報次第直ちに參上仕諸事御引請御調達可申候
京城旭町三丁目（十全病院隣）

大文字屋

京城博覽會一等金牌受領
純良醤油

登録商標 登

釀造元 大阪府堺市 戸川源之祐
發賣元 韓國京城 戸川京城支店（電話六二九番）

特約販賣店
京城本町二丁目 本田滿壽男（電話四八番）
京城本町四丁目 前田喜鳴（電話一三七番）
京城明治町一丁目 唐川立造（電話二六一番）
京城南大門通り 村田源次郎（同三五三番）
水原 德永仙吉

日本郵船株式會社 仁川出帆廣告

電話十番

貨物及船客取扱店
仁川海岸通 郡回漕店 電話三九番
京城南大門通 巴商會 電話三〇六番

● 釜山長崎門司神戸行 山東丸 十二月二十一日後三時出
● 群山、木浦、釜山、門司、神戸、大阪行 第一オハヨ號 十二月十四日後三時出 浦汐丸 十二月廿三日後三時出
● 大連、大沽行 酒田丸 十二月卅一日後一時出
● 大連行 營口丸 十二月十五日後一時出 高砂丸 十二月三十一日後一時出
● 大連、秦皇島行 山東丸 十二月十七日未明出
● 鎭南浦安東縣行 第一オハヨ號 十二月二十日後三時出 浦汐丸 十二月十一日後一時出
● 釜山出帆、元山、城津、浦鹽行 弘前丸 十二月十一日

御注意 御乘船ノ際ハ税關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御送リ可申候送迎船ハ本船出帆ノ約五十分前ニ船解纜ノ事

人力車營業
明治町一丁目
京城組
電話九四一番

開店一週間

十二月五日より

廣告景品付

弊店釀造清酒櫻正宗印義享保年間創釀以來茲に二百有余年其間專心釀造の改善と品質の精選に努力仕り結果以御蔭其品質の醇良にして名聲の嘖々たることは普く江湖諸君の熟知せらるゝ所となり日に月に益々顧客の御便利を圖り度今般當地に支店を開設仕り櫻正宗印並に櫻魂印正吉印稻豊印をも發賣仕り候右三種は櫻正宗印と同一釀法に係り各其特色を有し居各位の御嗜好に適し可申候に付何卒乍此上御倍舊御愛顧引立の程奉懇願候

京城南山町四丁目
山邑京城支店

營業科目
清酒 櫻正宗印 櫻魂印 正吉印 稻豊印
麥酒 キリンビール
味淋 櫻味淋
醬油 關東産 播州産各種
奈良漬 櫻印奈良漬

京城特約店 酒井政平 京城本町五丁目 電話六四番
仁川特約店 酒井支店 仁川本町四丁目 電話二五番

釀造元 攝津灘魚崎 山邑本店 電話七番

支店
釜山西町四丁目 山邑釜山支店 電話三〇一番
釜山南濱町 山邑支店南濱出張所 電話四六八番